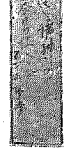
松本翁元気で百才を迎う

日常は、新聞や読書で余生
昔語りの記憶もたしかに



平均寿命の伸長とはいえ一世紀の長寿で、いまなお元気で、新聞を読み、情報にあり新聞を見たり、読書が楽しみとのこと。

松本翁は非常に元気で顔の色、ツヤも良く、話も達者で多少耳が遠い程度、唯、昨年三月、夜半に用たしに起きた時、転倒し肩を脱臼、以来体が弱り、足が不自由の為、床時代に於ける複雑多様化の現代社会を知りつゝ余世を楽しむ今年呼百才を迎えた松本一郎翁を訪ねてみた。

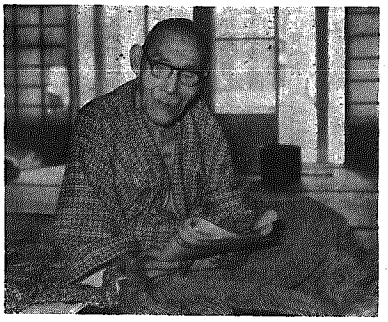
松本翁は、明治7年10月養蚕、葉タバコが主産であった。養蚕や、タバコは長くなかった。「アイ」の葉を、水をかけ熱を出させ、これを三㌢程の玉にして紺屋へ出した家で綿を作り、木綿糸をとって染めてもらい、織をおったもので、自給自足の生活だ。横越にも清次郎。バイムの紺屋があった。

☆光円寺は元は横町に有ったが、それ迄小浜代の代官屋敷昔領内の新飯田に、惣七という侠客があり、悪事で捕えられ、屋敷の牢に入って居ったと親から聞いた。天領は旧中蒲の大半が領内だった。

村の公民館が完成した時に招かれたが、この時に詠んだ句がある。

〝新らしき公民館に招かれて古きを語る老のともがら〟

翁は若い頃からグループを作り句会の宿もしたもの。家人の話しでは、新聞を見ている事が、世の中の事は良く知り、頭も達者なもの、皆んなのおかげで百まで生きてこれたと常に家族に感謝の意を口にしている。翁も「体は別にどこが悪いと言う事はないが、なんだって足が言う事をきかなくて――」アハハーと笑って居られた。



第5回海外派遣に
阿部君が東南アジアへ

次代をになう青年に、国際的視野と国際協力の精神涵養をと、「第五回県青年海外派遣団」を募集していたが、本村から阿部嘉寿一君（横越下青年会長22才）が応募した。

その結果、阿部君は、応募者多数のなかから第一次、第二次選考にパス、派遣団員（団長今井柏崎市助役）二十名の一員として、明春一月十七日から二十六日の十日間の日程で東南アジアを訪問することになった。

収入役に公演益金を手わたす田村連青団表

めぐまれぬ人々に
連青　わらび座公演益金を

横越村連合青年団は、八月八日村社会福祉協議会へ村内のねたきり老人や交通遺児などめぐまれない人たちにと、わらび座公演の純利益金七万円を寄附した。

わらび座公演は、村連青が「ナマの演劇を村民から楽しんでもらうと、また、めぐまれない人たちにあたたかい手を」と主催したもので、去る七月二十五日横越中学校で公演された。

この公演で青年団員は、各戸をまわって協力をもとめ、前売券、農協助成などの収入が四六三、九〇〇円、劇団公演料や諸経費支出が三六三、九〇〇円で十万円の純利益をあげた。

このうち、三万円を連青の活動費に繰入れ、七万円を寄附したもの。

〝モシモシ〟電話のじょうずなかけ方を！

村内の電話もダイヤル式になりましたが、ダイヤル・ミスが多いようです。ダイヤルミスは相手に迷惑をかけるばかりでなく、不愉快にさせたり、料金を損する事になります。

電話をかけるときは次のような点に十分注意ましょう。

①市内局番、または市外局番と、電話番号を必ずメモする。

②メモを見ながら、発信音を確め、ダイヤルを正確にまわす。

③ダイヤルの途中で一と休みは間違い電話のもと。

④相手を呼んでいるときは、呼出音の十回（約30秒）は待つように。

⑤ダイヤル終了後の無音状態（約10秒）は故障でないので、しばらく待つ。

⑥先方が話し中なら、2、3分待つ。

⑦ベルが鳴ったら、すぐ出て名前をつげる。

⑧ダイヤル市外通話は、まず〝0〟から。

短歌

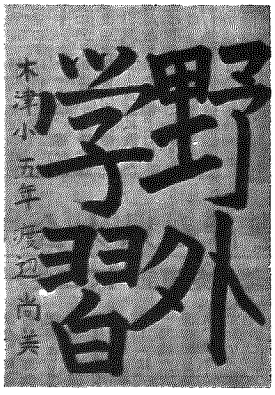
話し合う他人も良き人夏の土手
虫の声たずねて見えず月欠けて
仕事終え我が家の窓に夏の風

沢海布施志津

こどもサロン

（木津小学校二年　さとうやすこ）

〈評〉たのしそうなすいかわりの絵を見ていると、まわりのざわめきが聞えてくるようです。すいかわりをしている人だけをとり出して思いきって大きく書いたら、なお、よくなったでしょう。
（木津小　島田マサヨ先生）


（木津小学校五年　渡辺尚美）

〈評〉のびのびと、たいへん元気よく書いてあります。さらに、字配りや筆のつけ、筆のとめなど細かい注意をしてよい作品つくりへと努力をしましょう。
（根布　信雄先生）

48年度成人式を挙行
179名を招待！

昭和48年度〝成人式〟は、8月15日横越中学校体育館に於て挙行された。

今年成人を迎えた人は一七九名で当日は百余名が出席した。

式典は、公民館角田副館長の式辞に始まり、神田村長、佐藤議会議長、小林選管委員長、坂井教育委員長の祝辞のあと成人者代表10名（男4、女6）の所感発表があった。

このあと、全員で記念撮影や、梨の実コーラス・グループの出演により、なごやかな記念アトラクション。中食会が催された。

成人者はこの式を終了後、三々五々に同級会場へと散会していった。

トップ写真の説明

村の梨は、主として二本木と、木津部落の一部で栽培され、その歴史は古く元文年間といわれている。栽培面積は約五十ヘクタールで、品種は主に八雲、廿世紀、新興によって代表され、廿世紀が一番多く占められている。

古い歴史と伝統の上にある産地だけに、園には大きな木が沢山あって立派に手入れされている。近年産地の近代化も進み、県内産地の中では、横越梨として名声は高く、品質、味ともに秀れ市場ではいつも上位にランクされている。

今年の農協の出荷計画によると、三万六千ケース（五四〇㌧）と見込まれ共販率も大巾に伸び、台風や、病害虫の被害もないことから農家の期待も大きく、表情も非常に明るい。